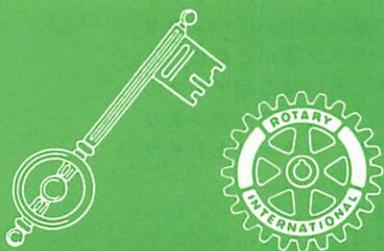


THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 菊池昭元

No. 47 (1985-86)

あなたが 鍵です
You are the Key

1985-86年度

RI会長 エドワード F. カドマン

第192回例会 昭和61年6月10日(火) 晴

◇ “奉仕の理想”

◇ 出席報告

会員 59(58)名 出席 40名
出席率 68.97%
前回 6月3日 (修正出席率) 98.28%

◇ ビジター紹介 4名

◇ お誕生日祝福

浅井君(6/1)、魚津君(6/11)

◇ ニコボックス

久保田 皓君、鷲野 義明君 ゴルフ会幹事
副幹事、無事勤めさせて頂きました。

松居 敬二君、鈴木 正男君 ホームクラブ
永らくご無沙汰致しました。

浅井 誠寿君、魚津 常義君 お誕生日祝い。

◇ 青山副幹事報告

1. 本日例会終了後、次年度各委員会会議を
開催致しますので、各委員会正・副委員長
はそのままお残り下さい。

2. 次週は5時よりクラブ奉仕委員会を開催
致しますので、各委員会委員長は2F橋の
間にお集まり下さい。また6時よりクラブ
アンプリーを開催致しますので、昼間の
例会はございません。

3. ロータリーの適用相場現在180円を6月
1日より、175円に変更致しますのでお知
らせ致します。

◇ 菊池会長挨拶

今日は水無月に因んで水の話をさせて頂き
ましょう。水は人間を始め地球上の生あるもの
にとって空気に次ぐ必要不可欠なものです。水は我
我に教えてくれます。「水は万円の器に従い」
とは順応性や融通性、相手に対する素直な心
を教え、「水の中には何でも入る事が出来る」
とは抱擁力を意味し、「水は油と混じらない」
は妥協を許さない毅然たる精神を示し、「水
は燃えさかる火を消す」は悪に立ち向う勇猛

心を象徴し、「一滴の水はやがて岩をも通す」
之は地味な努力を続ける心、「水は常に水準
を保つ(水面の真たいら)」は尊い美德を教
え、「知に傾けば角がたち、情に竿させば流
される。とかくこの世は住みにくい」とは水
に喩えた人生航路であり、水は如何なる姿、
形に変わっても必ず本来の姿に戻り、同類と
一体となる。一貫性をもち、個人主義や個人
生活のない集団融合です。人間生活、ロータ
リー活動に於いて斯くあるべしと、水は教え
ています。一方、この様に何事にも欠かせな
い水も、その素直さがわざわざして大変な事
態を引き起こす事もあります。即ち、先日の
ソビエトに於ける原子力発電所の事故による
放射能に汚染された雨が遠く我が国迄降り、
水や野菜、牛乳、はたまた頭にかかると禿げ
るとか騒れたのも記憶に新しく、辛い生活に
影響がない範囲と言う事で何よりでした。又、
中国大陸から季節風に乗って運ばれて来る酸
性雨と言う厄介なものもあります。今や中国で
は硫黄分の多い石炭を燃料に使う為被害も激
しく、「空中鬼」と呼ぶ程に酸性雨の被害が
深刻化しています。中国から日本へは春先の
黄砂現象に見られる様に強い風が吹いて居り、
酸性雨が之に乗って運ばれ日本に被害を与え
る恐れがあると言うものです。日本で酸性雨
が話題になったのは昭和40年代後半で、関東
地方で目がチカチカする、のどがピリピリす
ると言う訴えがあり、その後被害が局地的で
あったり軽かったり、人々の関心は次第に
薄れて行きました。しかし、北欧や米国、カ
ナダでは年々被害が深刻化し、社会的に大き
な問題になって居る様で、ノルウェー、スウ
ェーデンでは湖沼の魚が死んだり、森林が枯
れると言う事です。中でも西ドイツの実情は
ひどく、土壌を中和する為莫大な予算を使っ

て森に石灰をまいているが、効果の程は疑問とされています。森林が死滅して行くのを目の前にし乍ら、なすべきすべもないとは悲劇な事です。我が国でも昨年関東地方の杉枯れ現象と酸性雨との間に関連がある事が指摘され、環境庁は観測所を日本海側にも増設し観測を強化しています。我が国としては円高のお蔭で原油価格が大変安くなり、石炭利用が増えるとは思えませんが、電力や産業部門、自動車の排ガス等に於て万全の策をとり、我々の生活に欠かす事の出来ない緑や美味しい空気と水の保護にいかんなき事を訴える次第です。

◇ 講演

“美味しいワインは何故生まれるか”

ワイン評論家

金井 実 氏 (紹介 浅井君)



ブドウ科植物の現在知られている属や種は自然の形成要因の影響のもとに何百万年の進化の過程を経て白亜紀の初期およそ10億年前に出現した。それは北半球全域に広がったが、その殆どはヨーロッパの氷河期に絶滅した。生き残ったのはアルプスの南、すなわち南フランス・イタリアと、その他ではトランスコーカシアの森林地帯である。おそらく氷河期以降のユーラシアでは1種の古代ブドウが残り、それは今日、同地域の森林で生存する野性欧州種ウィティス・シリウエストリスの祖先であったと思われる。この生き残ったブドウこそが、現在フランスやドイツを一流のワイン国へと導いたわけで、アメリカや日本が逆立ちしても足もとにも及ばない理由もここに帰因する。

とくにトランスコーカシアが最初にこのブドウを栽培型にし、その進化とともに、メソポタミア・ギリシャ・ローマ等を経て現在に至っている。野生型では雌雄異株であったものが両全花となり、ヨーロッパ的気候にきさえられて三つの群が出現したが、このブドウをウィティスウィニフェラと総称している。ウィティスはブドウの意であり、ウィニフェラはブドウ酒向の意であって、その名もブドウ

酒のためのブドウが北緯30°から50°のヨーロッパを埋めつくしている。一つはポンティカと言い、黒海沿岸の盆地を中心にハンガリー、ルーマニア、ブルガリア等がこれに入る。二つはオリエンタリスと言い昔の西アジアのオアシスに発生した。三つはオクキデンタリスと言い、このブドウが、フランスとドイツに栄光とプライドを与えている。

ブルゴーニュの王様ブドウ、ピノ・ノワールとシャルドネー、ボージョレヌーヴォーでその名をますます高らしめたガメイ、ドイツのリースリング等いずれを見ても強者が揃い、どのブドウも自らの王国を他の品種に犯されない気品をもって現在のワインブームをささえている。これらの一流ブドウは自国間でも一部をのぞいて別の地域に適應せず、まして遠い日本に移植されてその能力を発揮するはずもない。ワインは以上のブドウの歴史をもって完成したが、その生成段階から完成期に至る自然社会要因も見逃せない。夏乾燥し、アルカリ土壌の強いヨーロッパで肉食の相手としてワインを重要視することは、為政者の責任であったし、初期においては異民族定着化の有効な手段だったのである。

ヨーロッパではワインは厳重なワイン法により、その品種、収穫量が定められているが、農道をはさんで片や1千円のワイン、片や三万円と信じがたいワインの値段差が生れもしている。単純に土壌成分が決定的な場合もあり、フランス語で言う微気候(ミクロクリマ)一馬の背を分けて雨が降ると言ったような一による場合もあり、これはワインを産する畑のことをクリマと呼ぶことからその重要さが理解される。そして人の能力は1割ほどでもワインの出来に関知出来ないが、愛情は100%要求される。

ちなみにブドウが花開き完熟するまでに、100日を要するが、その間の総雨量220mm以内の年にフランスやドイツでは偉大なワイン年となる。

◇ 例会変更のお知らせ

名古屋和合RC 6/18(水) F. S. M.の為、
井清寿にて18:00より

名古屋名北RC 6/25(水) 夜間例会及びF.
S. M.の為、17:30より

◇ 次回例会(6月17日)

クラブアセンブリーの為、講演はございません。(愛知厚生年金会館にて18:00より)

◇ 次々回例会(6月24日)

“シャンソンの集い”

シャンソン歌手 西山 伊佐子 さん

(紹介 浅井君)